

## 在院日数の指標

### 項目の解説

DPCごとの在院日数を視点とし、病院全体として効率よく診療（診断群分類点数表の入院期間Ⅱより短い）していることを評価します。いわば、「効率性の指標」ということができます。

そもそも平均在院日数は患者の構成により数値が異なるために、患者構成を加味しない単なる平均在院日数は意味がありません。DPCにより、最も医療資源を投入した傷病名と、行った治療行為に患者分類が行われ、それぞれのDPCごとの全国平均の在院日数も公表されました。このデータと、自院のDPCごとの在院日数により、同じDPCでも在院日数が全国よりも長いのか短いのか判断できます。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すものであるが、数値は1.0が全国平均の在院日数であり、大きい方が全体として在院日数は短く、効率よく診療していることを示します。

### 当院の値(単位・調査期間)

21年度 0.90 - (6か月)

20年度 0.93 - (6か月)

19年度 0.94 - (6か月)

### 算式

指数

### 定義

厚生労働省のDPC評価分科会の公開データ